天理教 江南支部だより

発行先　江南支部
発行日　立教187年２月1日
発行責任者　福西　努
発行住所　甲賀町上野461番地9
２月号　N0283

令和6年能登半島地震発生

災害救援ひのきしん隊本部隊、石川教区隊、新潟教区隊、富山教区隊が出動救援活動に当たる

石川教区隊は5日から第1次隊として、断水が続く七尾市能登島へ出動。救援物資を届けたほか、旧役場駐車場を拠点に、給水車を用いて住民に飲料水を提供した。

新潟教区隊は、珠洲氏の小学校に避難している人の食事、約200食を調理したほか、避難所のトイレ掃除などに力を尽した

江南支部では、役員が相談の上、10万円の義援金を石川教区に送らせて頂きました。

「災救隊基金」について

天理教災害対策委員会（仲野芳行委員長）では、「天理教災害救援ひのきしん隊基金」を常設し、救援活動のさらなる拡充のために運営させていただいております。

このたびの「令和6年能登半島地震」による被害が拡大している現状に対し、同基金を通して広く教内の真心を結集し、災救隊の活動支援および被災教区への復興支援に活用いたしますので、何卒、同基金の上にお心寄せをいただきますよう、お願い申し上げます。

振込先

ゆうちょ銀行または郵便局からの振り込み

口座記号番号　００９６０‐５‐１９７９６８

口座名義　天理教災害対策委員会

他金融機関からの振り込み

銀行名　ゆうちょ銀行

支店名　〇九九店

預金種目　当座預金

口座番号　０１９７９６８

口座名義　テンリキョウサイガイタイサクイインカイ

朝の信仰読本

中山慶純著

目で優しく諭せる人になろう

本部神殿の朝夕のおつとめには、幼い子供や赤ちゃんも参拝しています。スヤスヤ寝ているところを起こされて来ている子もいるでしょう。特に、朝づとめのときは、不機嫌そうにむずかったり、ギャーッと盛大に泣いたり、いろいろな子がいます。

ある教会で、以前こんなことがあったそうです。

信仰熱心な奥さんが未信仰のご主人と赤ちゃんを連れて、月次祭に参拝しました。ご主人が教会を訪れるのは、この日が初めてです。「一緒に参拝に行きましょう」と声をかけ続けた奥さんの喜びは一入（ひとしお）でした。

祭文奏上中のことです。赤ちゃんがぐずぐずと泣きだしました。参拝者はみな拝をして、真剣に祭文に耳を傾けていましたが、やはり厳かな雰囲気は乱れてしまいました。

すると、古参のおばあさんが、赤ちゃんとその夫婦のほうを振り返り、鋭い目つきでぐっと睨（にら）みつけたのです。慌（あわ）てたご主人が赤ちゃんを抱いてすぐに廊下へ出たので、その場はひとまず収まりました。

しかし帰宅後、ご主人は奥さんに「天理教って冷たいんだな。赤ん坊が泣いただけで、あんなふうに睨まれてしまうのか」と言ったそうです。その一件以来、ご主人は教会に来なくなってしまいました。

私たちようぼくはは「教祖の道具衆」として、人さまのおたすけをさせていただくとともに、お道を知らない人や子供たちを導き育てる立場でもあります。そういった人と接するときは、より注意深く、温かい配慮が必要です。このおばあさんは長年信仰しているのですから、夫婦にとっては〝お道の先輩〟です。先輩ようぼくとして穏やかに諭すのならともかく、この振る舞いは失敗でした。

目は心を映し出す鏡です。腹を立てているとき、いくら平静を装い笑顔をつくっても、目には、その人の正直な気持ちが表れてしまいます。

親神様は私たちに〝真実の心〟でおたすけすることを求められています。真実の心を発揮するには〝技術〟が必要です。それは、人を勇ませる言葉づかい、人の心を傷つけない目配りなどです。「あの人は、口うるさいことは言わないけれど、目で優しく諭してくださるなあ」と言われるようになりたいものです。

また、幼い子供を持つお母さん、どうか子供を連れて、おぢばや教会に参拝してください。そして一緒に親神様、教祖にごあいさつをし、日々お礼を申し上げてください。お母さんが蒔（ま）いた信仰の種は、いつかきっと子供たちの心に大輪の花を咲かせ、その身を守ってくれます。

みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何とありがたいことか！

はじめて、死とは何かについて本当の

ことを教えられた

誰にとっても死ぬことは悲しいことである。しかし生きものとしては死ぬことはどうにもならない定めである。

教祖は死ぬということは出直しであると教えられた。この世に生まれ替わってくる、その出発点であると教えられた。死ぬとお借りしている身体は親神さまにお返しするが、魂は生き通しであり、また新しい身体をお借りしてこの世に生まれ替わってくるのである。

聖書の「創世記」によれば、神に背いた人間に神から罰が与えられた。その一つが死ぬということである。キリスト教では死は神が与えた罰である。人間は苦しんで死なねばならない運命を担うものであるという。

お道では死は出直しであり、それはむしろご守護の一つでもある。

はじめて、死後の本当のことを教えられた

死んだらどうなるか、ということについてどの宗教もいろいろと教えている。

中にはこの世の幸せよりも、あの世での幸せや不幸な運命の恐ろしさを説き、この世のことを蔑ろにしているものもある。

天国での幸せ、極楽浄土での幸せを願い、この世の幸せを軽視したり無視するものもある。

一方では、地獄へ落ちるぞと恐怖心をあおるのもある。

ある信者が、聖フランシスコ・ザビエルに聞いた。「イエス・キリスト様を知らず、洗礼を受けずに死んだ父母や祖父母も地獄へ行ったのですか」と。「そうだ」と答えると、その信者は、「ああ可愛そうだ」と泣き崩れたという。聖フランシスコ・ザビエルも答えに困ったのである。

渡部昇一上智大学名誉教授によれば、キリスト教がヨーロッパのゲルマン人に伝えられたとき、一番障害になったのが、地獄の教えであった。そこで、宣教師たちは、ゲルマン人を安心させるため、「煉獄」という、キリスト教にはもともとない教えを考え出し、ゲルマン人を安心させ、入信させることに成功したという。地獄は永遠に火で焼かれる恐ろしいところであるが、煉獄は、最後の審判で天国か地獄にふり分けられる前にいる一時的な待機所であり、罪を清算できるところとか。

その地獄についてもセム系宗教と仏教では違うようである。

セム系宗教が教える地獄は、永遠に火に焼かれるという、恐ろしいところである。

フランスの少女で英雄ジャンヌ・ダルクは捕らえられ、魔女として火刑になる前に、何回殺されてもよいが、火刑だけはしないでほしい、と訴えたという。身体がないと最後の審判のときによみがえれず、地獄へ行かねばならないと恐れていたからである。

日本のキリシタンが残酷な拷問に屈せず殉教したのも、信仰熱心であったというだけでなく、地獄の責め苦の方がもっと長く恐ろしいからであった、と言う人もいる。

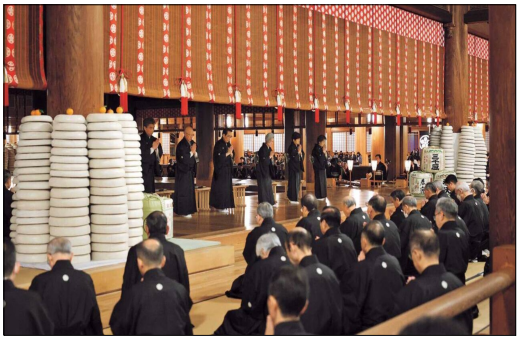
聖アウグスチヌスは、地獄に落ちる人を同情してはならないと言っている。そこには絶望があるだけである。たすかる道は全くない。

一方、仏教では地獄にたくさんの種類や段階がある。例えば等活地獄、黒

縄地獄、叫喚地獄、焦熱地獄、阿鼻地獄、無間地獄等々二百を超える地獄があるという。

しかし、阿弥陀経や法華経を読経したり写経すると地獄から抜け出されるという。多少の希望があるのが仏教の地獄である。

三年千日活動2年目　初づとめ 決意新たに　立教187年本部元旦祭



立教一八七年の本部元旦祭は1月1日、中山大亮様祭主のもと、本部神殿で厳かに執り行われた。

大亮様の祭文奏上の後、立教一八七年の初づとめとなる、かぐら・てをどりが陽気に勤められた。

低気圧や前線の影響で全国的に荒天となった大晦日。年が明け、夜明けが近づくにつれ、冷え込みが一層厳しくなるなか、「みかぐらうた」を唱和する勇んだ声が神苑一帯に響いた。

親里の〝新春の風物詩〟「お節会」に4万9000人

親里の〝新春の風物詩〟である「お節会」が、5日から7日にかけて行われた。

教祖が現身をもってお働きくだされていた時代から続く伝統行事には、3日間の期間中に4万9千246人が帰参となった。

２月の支部にをいがけデー

２月２８日午前９時～

拠点教会　雲井分教会　信楽町黄瀬661番地